



▲足元に気を付けながら、力を合わせて搬送



▲担架をロープで引き上げる



▲がけ地に負傷者を発見！

## 山

岳救助隊は、救助技術の向上を図り、的確に救助活動を行えるよう、夏山および冬・山岳救助訓練を行っています。昨年7月27日、定山溪の小天狗岳で行われた夏山山岳救助訓練に同行取材しました。

この日の訓練では、頂上付近で登山者が登山道から20メートルほど滑落し、左足を負傷したと想定。本番さながらの救助活動を行いました。最初に救助隊は山麓に集合。ロープや担架などの装備を確認後、現場へ向かいます。

登山道は幅が狭いため、隊員たちは一列になって山を登り、倒木や急な斜面があると「倒木注意!」「急傾斜あり!」などと、先頭を歩く隊員が、大声で後ろの隊員に注意を呼び掛けます。また、後発部隊が、自分たちの向かった場所が分かるよう、木に目印を付けながら現場を目指しました。

がけ地に転落した滑落者を発見すると、直ちに救助準備に取り掛かります。まず隊員の一人ががけ地に降りて「聞こえますか。大丈夫ですか」「痛いところはありますか」などと、意識や負傷の有無を確認。「要救助者意識あり、左足骨折の疑い!」と山道に

待機している隊員に状況を知らせると、もう一人の隊員ががけ地に降り、負傷者を担架に乗せ、残りの隊員は近くの頑丈な木にロープを縛り付け、負傷者と隊員をロープで引き上げました。

三角巾で応急手当を施した後、担架に乗せた負傷者を山麓の救急車まで搬送。隊員たちは負傷者に「もう少しですよ。頑張ってください」と励ましの声を掛けながら、細心の注意を払い搬送しました。足元が安定しない山の中で、一刻を争う人命救助に、隊員たちの表情は真剣そのものでした。

## 南

消防署の大沢征二山岳救助隊長は「登山には、余裕のある登山計画と十分な装備が必要です。これらのことに注意して、安全な登山を楽しんでいただきたいです。」

山岳救助隊は、厳しい訓練を通じて、救助に必要な技術を身に付けています。市民の皆さんに「いざというときに頼りになる」と思われるよう日々努力していきます」と話します。

山岳救助隊に関するお問い合わせは

南消防署警防課

☎(581)2100

### ■登山・山菜採りに行くときは

次のことを心掛けて、事故を防ぎましょう!

- ・行き先、帰宅時刻を家族に知らせる
- ・単独の入山はできるだけ避ける
- ・寒さをしのげる服装にする
- ・目立つ色の服装にする
- ・携帯電話やラジオ、十分な食糧・飲料水を持っていく
- ・携帯電話は十分に充電したものを持つていく(山の中は電波状態が悪いため、通常よりも消費電力が多くなる)

登山道の入り口にある入林者ボックスに名前を記入する  
迷ったら動き回らず、速やかに119番に通報をする



▼無事救出!



▼負傷者を発見、いざ救出へ!



▼スノーモビルも出動!

